

会 議 録

1 会議名

平成30年度第1回阿賀野市子ども・子育て会議

2 開催日時

平成31年1月28日（月） 午前9時30分から午前11時30分まで

3 開催場所

阿賀野市役所 別館303会議室

4 出席者（傍聴者を除く。）の氏名（敬称略）

・委員長：丸山 賢宗

・委員：田中 晋、土田 暢也、本間 淳子、長谷川京子、田崎麻衣子、
杉山亜沙美（10人中7人出席）

・事務局：学校教育課長補佐、学事係長
社会福祉課長、児童福祉係長、五十嵐主任（計5人）

5 議題

（1）委員長の互選について（公開）

（2）阿賀野市の子育て環境の現状について（公開）

（3）子ども・子育てニーズ調査票の内容について（公開）

6 非公開の理由

なし

7 傍聴者の数

0人

8 発言の内容

(1) 委員長の互選について

中澤係長：阿賀野市子ども・子育て会議条例」では、第5条に委員長及び副委員長の選出について記載されています。委員長は、委員の互選により定めることとなっています。当会議の委員長は、阿賀野市保育会会長木村氏からお引き受けいただきましたが、保育会会長が安野こども園丸山園長となられたことから、子ども・子育て会議の委員についても、丸山園長からお引き受けいただいております。

委員長の選出ですが、どなたかお引き受けいただける方はいらっしゃいますでしょうか。どなたもいらっしゃらないようですので、事務局からご提案してよろしいでしょうか。

様々な福祉の知識をお持ちであり、児童福祉の分野に精通されておられる阿賀野市保育会会長丸山賢宗様をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

今回副委員長につきましては、本日都合により欠席されておられる保志委員から引き続きお願いしたいと思います。

それでは丸山委員、委員長席に移動し、一言ご挨拶をいただき、この後の進行も併せてお願いします。

委員長：皆様おはようございます。ただいま委員長に選出されました阿賀野市保育会会長をしております丸山賢宗と申します。安野小学校の隣にあります安野こども園の園長をしております。私は阿賀野市保育会の会長のほか、我々の関連団体であります下越地区私立保育園連絡協議会の副会長を、新潟県私立保育園・認定こども園連盟の事務局長も務めております。皆様方のお知恵をいただきながら進めてまいりたいと思いますので、活発なご意見またご指導を賜りますようよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。議題(2)の「阿賀野市における子育て環境の現状について」、事務局より説明をお願いします。

(2) 阿賀野市の子育て環境の現状について

五十嵐主任

資料1 阿賀野市の子育て環境の現状について説明

委員長：それでは2号議案の審議になります。今ほど事務局から子育て環境の現状についての説明がありました。全国的にみてこの新制度が始まり大きな転換があったと思います。例えば、東京では待機児童が溢れているとか、企業主導型がたくさんできて、現状いろんな問題を生んで、全国ニュースを賑わせています。また、阿賀野市では全体に人口減少がある中、地域でいろんな事案が多く出てきた昨今なのではないかと思っております。私の園も以前は保育所でした。この制度が始まり、幼保連携型の認定こども園に移行いたしました。今この阿賀野市では、認定こども園に移行した園が12園、幼稚園が公立含めて2園、保育所のままが4園となりました。そして支援セ

ンターにこにこもこの期間の中で出来ました。この点は阿賀野市の中においてどう考えていくのかというようなご意見がありましたら、皆様方何かございますでしょうか。

委員：8番の子育て支援センターについてですが、保育園・こども園・幼稚園に入園していない子どもさんが対象ということなのですか。入園していない子どもさんはどれくらいいらっしゃるのですか。

五十嵐主任：資料1の3番入園児童の比較をご覧ください。例えば、平成30年度の5歳児321人の人口がある中で、園に通っている児童が314人となっております。市外の園に入っている方もいるので、そのずれと障がいのあるお子さんで通っていないお子さんもいるのかと思います。入っていない方の理由は確認しておりません。基本的には、3、4、5歳になるとほぼ全員のお子さんが保育園、幼稚園なりに入園しているところが阿賀野市では現状です。3年保育というところだいたいのお子さんが入っています。

委員：支援センターがいくつかありますが、保育園や幼稚園に入園している方は使っていないのでしょうか。

五十嵐主任：使えないということではありません。園が休みの日、土曜日ややっているところが安田地区のいとごさん、水原地区のこにこは土曜日やっていますので、その辺りは就園していても利用している状況です。

委員：利用者は結構いらっしゃるのですか。

五十嵐主任：お休みの日になるとかなりいます。増えます。

委員長：利用者実績などはありますか。

五十嵐主任：支援センターの平成29年度実績になりますが、京ヶ瀬であれば延べ6,400人、安田地区にはほたと風の子があるのですが合せて4千人程度、水原地区にはあやめ、おとぎくに、安野、ひまわり、こにこで2万1千人というところでは合計延べ3万以上のお子さんが支援センターを利用しております。阿賀野市内だけに限らず、市外の方も利用することができますので、市外のお子さんも入っているということです。

委員長：計画を策定し4年目、国の子ども・子育て会議の要綱を見ますとPDCAに基づいて進めてくださいとあります。国も平成31年度が終わりますと一旦5年計画を再考して、新しい子育て支援制度の改善を図っていくということです。改善を要するものはこの会議で知恵を出し合って、阿賀野市の子育て施策に大いに反映していただきたいと思います。平成27年度は安田地区において子どもが多く入園希望が殺到していた。今子どもの数が少なくていろいろな問題が出ている。京ヶ瀬地区においては、非常に宅地造成が進んでいて、一昔前の安田地区のように子どもの数が異常に多くなっている状況にあり、阿賀野市の中でも二極化している。また中心地においては人口減少している。実状としましてどんな感じでしょうか。

委員：笹神は広いのです。児童クラブは他地区にお世話になったりしています。祖父母がいる家庭は家で見られています、小学校でもそうですし、保育園、主任児童委員と

して最近は何もお邪魔していません。私がこの会議に出て意見を言った病児保育事業が、ここにこの2階に出来たのですか。病院内ではなく、そこに医師がいらっしゃるのですか。

五十嵐主任：病児保育室は旧郷病院の検診センターのところの2階にあります。1階が子育て支援センターにここ、2階に病児保育室があり、医師は常駐していません。あがの市民病院の小児科医の先生が、必ずお子さんがいらっしゃる場合は問診ということでお子さんの様子を確認してくれます。また看護師は常駐していますので、看護師に指示をしたりして、子どもを見守っている状況です。

委員：利用はありますか。

五十嵐主任：病後児のときは病気の後ということなので、年間20人程度でしたが、病児保育を開設し、開設当時はよくわからないというところで、利用は少なく年間100人いかなかったところでしたが、今は昨年度実績で400人を超えました。今年も昨年を上回るくらい、今インフルエンザも流行っておりますので、ほぼ定員いっぱい6人の子どもさんが利用している状況にあります。利用した方の口コミですか、利用者数が伸びている状況にあります。

委員：利用者が伸びることがいいことかどうかは。笹神は4つの保育園があります。今はみんなバスですから。人口は減っていますが、こんなものでいいと思います。

委員長：笹神地区も大きく分けると神山、笹岡があります。

委員：全部私立になりました。元の東小学校のところに、今みのりが移りすごく広々としています。4つの保育園で神山はほとんどみのり保育園です。あとは大室の方が双葉保育園、出湯保育園、神山地区に1つで笹岡地区に1つでしょうか。

委員長：笹神地区には保育園、こども園は4つという状況ですが、今児童クラブというものが各学区にもあちこちにあるようです。この児童クラブの利用率が上がっている中で、今後もう少し量の拡大というところも出てくるのかという思いがあります。実際に利用なさっている保護者代表の笹神地区の委員さん、ご意見いかがですか。一番大事なのは利用者目線で子育て環境が阿賀野市は充実しているなという意見を、たくさんあるほうがより環境を充実させるためよくなるので。

委員：うちは小学校1年生の息子がいて、早めに学童に申し込んでいたので入れたのですが、周りの友達は何も入れない、電話しても定員いっぱいですと。

委員：どちらに行かれるのですか。

委員：おとぎさんに行ったり、でも友達がいないから子どもも行きたくないというのです。それで何とか調整してもらったり、結構狭い中にぎゅうぎゅうと詰まっているのです。もう少し入りやすくすると。今度の一年生もいっぱいだと。一回抜けたら入れません。夏休みだけの利用もできない。

委員：笹岡なら学校の帰りにすみれさんに近いので行くとか。

委員：神山小はどうしているのでしょうか。

委員： 神山小学校はうちのすぎの子クラブに来ています。すぎの子クラブは今民間になりましたけれども、前は公立で阿賀野市がやっていたところで、そのまま民間になっても、神山小学校の児童をそのまま引き継ぎ、迎えに行っています。すぎの子クラブは定員60人なのですが、その内の1/4が神山小学校のお子さんなのです。神山地区に児童クラブを作っていただきたい。定員は1年生から6年生までなのですが、各学童ほぼ3年生で定員がいっぱいで、神山に作っていただけたなら、水原小学校のお子さんを100%受け入れられるので、そうすると水小のお子さんをもう少し、5、6年生のお子さんと預けたい親御さんの話を聞くので、やはり各地域にひとつとは言いませんが、あった方がいいと思います。親の方も送り迎えが大変だと思います。

委員： パトロールの時に、タクシーが迎えに来てびっくりしました。

委員： 前はタクシーで迎えに行っていましたが、今はみどり保育園がやっていますから保育園バスで行き、3年生の下校時間が変わる時は個別に迎えに行ったりもしています。送り迎えのことだけでなく、地域にあったほうがいいと思います。

委員長： ありがとうございます。学童クラブについては、笹神地区の神山、笹岡地区ともあり方についての問題が出てきています。学童クラブの運営方法もいろいろあるかと思えます。全国的には小学校の空き教室を利用したり、阿賀野市では法人、民間が運営するという方法もあります。公立で市役所の中の一角でやるとか、いろいろな方法はあるかと思うのです。今ご意見が上がったのは、笹神地区は保育園、こども園の量は足りているけれども、学童クラブの量は足りていなくて、順調な運営が出来ていないということです。そのような評価がある中で、阿賀野市の計画がこのようにあるとか、人口減少している中で学校の統合も進んできたこの世の中なので、いくつかなくなっている小学校もあります。笹神地区も人口の減少が激しいところなのですが、そこも含めて市の計画があるのでしょうか。

山崎課長： 児童クラブについては、場所の問題があるわけです。笹岡地区の委員の子どもさんは、すみれ児童クラブに入っておられるということなのですが、すみれ学童クラブには24名が入っております。180人位の児童がいる中で24名しか入れていないということになりますので、児童クラブで足りているかというところではないと。どこにおくかということになるのですが、ここが悩ましいわけです。既に民間がやっているという中で、場所を設けて公立でやって官と民でどうなのかという部分もあります。場所さえあれば学校の空き教室、今委員長がおっしゃられたように学校を利用させていただけるのであればと、アクションを起こしたこともありますが、やはり学校でやることになるという課題も大きくて、新潟市のひまわりクラブは学校内に運営していたものが、敷地外の学校の外に出てプレハブを建てて今運営しています。なかなか難しいのです。官だけでやるのか民だけでやるのか。官民混合でということになると、同じようなことを官民でやっていていいのかと。これは安田地区でも、これまで民間の保育園がやられていたものを、なかなか厳しくなったのでという

ことで、今溢れてしまった子どもさんをお預かりして、市で設置して運営している状況です。菌切れは悪いのですが実態はよく存じております。神山につきましても、すぎの子に通っていて、すぎの子さんもそれがあるために水原地区の子どもさんが制限をされているという話もお聞きしているところです。笹岡は今申し上げたとおりです。現状は把握しておりますので、何もしていないわけではなく、話をしているところまでいっては、三步進んで二歩下がる、二歩進んで三步下がるようなことをしているので、今後とも地元の保育園若しくはこども園等の力をいただき、意欲の確認をしながら、笹神地区においては取り組んでいきたいと思っております。状況は今話をいただきましたが、その前から把握はしているつもりです。そんなところでございます。

委員長：この地区は、利用している方が困っているということもありますので、引き続き、またこの会議の中で検討課題としていきたいと思っております。また京ヶ瀬地区におての現状はどうでしょうか。こちらはこどもが多くて頭を抱えている問題、今ほど児童クラブの中でも、ほかの地区の児童クラブを利用するとなると知っている子どもがいなくてと、子どもの率直な意見だと思います。他地域を利用するとなるとまたそこでもいろんな問題も出てきていると思っております。保護者の観点から委員、耳に届いてますか。

委員：子どもが小学校高学年で、お友達の子どもの話とかで聞くことはあっても、実態を見る機会がなかなかありません。私の子どもは全員京ヶ瀬幼稚園だったのですが、今は変わって延長保育も出来るようになった。いろいろ変わった話は聞いて、私の頃もそのようなことがあったら良かったなという話はします。なかなか今の実態がどうなっているということまでは、わかりません。申し訳ないです。

委員：京ヶ瀬は恵まれていると思っております。幼稚園と保育園。

委員：極端に保育園が増え、幼稚園がすごく少なくなってしまって、幼稚園に人を集めるのにいろいろ改善してきたという話は聞くのですが。

委員：盛んですよね。充実した内容も見学させてもらったこともあります。

委員：小学校の近くにも住宅地が増え、その辺は賑やかになっている感じはあります。

委員長：その辺の実情、大きく変わってきた地区でもあると思っております。人口推移、宅地造成も進んでおりますし、今ほど委員が通われていた公立京ヶ瀬幼稚園でも幼稚園型の認定こども園になったので、その受け入れ枠が大事になってくるかと思っております。この数年で変わったところ、児童クラブの面も含めて、これは関連していると思っておりますので、その辺の推移経過、今後の見通しを委員の皆様方にご説明いただけるとありがたいのですが。

山崎課長：京ヶ瀬で今何が起きているかということなのですが、今委員長から数年前らというお話があったのですが、正しくはここ一年です。急激に状況が変わったと思っております。平成16年から平成28年度まではほとんど変わっていないのです。29年11月から申込みがされる30年度の申込みから、市役所で感じたところです。

極端に言えば、平成29年12月です。年が明けましたので一昨年となりますが、実際一年なのです。28年度までは毎年京ヶ瀬地区においては、新規申し込みが40人程度でございました。29年度申込み11月から申込みをするわけですが、70人に増えていた。30人が一気に増えた。これがすべてなのです。何が起きているのか。宅地は建っています。宅地に家が建っている全部が保育園に上がるような子どもさんがいるかどうか、これは調べてみなければわからない。調べてみたら30人が多かった。30人の中でこちらの方でも追跡をしていくと緑岡の部分が多かったということがわかりました。推察をすると、昨年29年度は33区画の造成がされ、今建っているのが30区画と22区画です。52区画は建っております。徐々に家も建ち始めましたが、まだ住んではいないようです。今後ここが悩ましいところで、確実に来るだろうご家庭、子育て時期のご家庭が50世帯来てくださるのかと、完全にわかっているのかとわからないわけです。造成はされた。誰が来るかわからないという悩ましい部分があるという、それで本当に悩ましい。来たご家庭で一世帯当たり2、3人必ずお子さんを二人ずつ出生されるのかという確約もない中で、家だけが急激に建っている現状が今だということでもあります。京ヶ瀬幼稚園の裏に田んぼがございますが、合併前もずっと田んぼだったのですが、ここにきて急激に田んぼだったところが宅地化になっている。幼稚園の裏側も同じような土地であります。規制がない。誰も規制が出来ない中で、売主と買主が自由な契約の中で買って造成し、手続きをすれば家が建っていくことが可能だと。わかりません。やってみなければわからないというところで非常に読みが見えない。ここを全部拡げますよという計画があつて、何軒はりますよという、二人ずつお子さんが確実に出生しますという数字で公式が成りたつのであれば、委員長を含むこども園の法人に対して、今後これだけの見込みがありますがいかがですかと、土地を買って園舎を補助金で建てて、ペイできるのですがなかなか不確定なところもあり、非常に悩ましい部分があります。今後このペースで進むのかという確約もございません。まだまだ土地田んぼが空いているからガンガンいけるのかと、いくかもしれないしいかないかもしれません。京ヶ瀬という土地柄が今難しいところにきております。来もしない投資をしていいのかという部分もあります。誰が投資をするのかという非常に読みにくい地区になっているのが、今の京ヶ瀬地区です。何が起きていくか難しい状況が発生しているということです。子どもさんが30人増えたと申しましたがこの30人については、育児休暇を長く取っていただいて、1歳まで育児休暇を取っていただくことで10人の方から申請を取り下げただきました。あとの20人については、市内の京ヶ瀬こども園さんをはじめ引き受けていただいたということが、29年度から30年度の入園にかけての実情でございます。今年度については、もっと増えているのではないかということが想像されるのですがそうでもないのです。通年の40人よりも増えていることは間違いありませんが、昨年のような70人というようなことでもありません。「どうなっているのか」と

言われますが、「どうなっているのでしょうか」と私から逆に聞きたいところではありません。多いことは多いのですが、この部分で京ヶ瀬こども園さんから引き受けをしていただく、当方の京ヶ瀬幼稚園をこども園化して未満児を引き受けるということで何とか間に合いそうであると。今受け付けている中では間に合いそうだということであります。先ほど委員長から児童クラブも絡めてというお話でありましたので、保育園のキャパを空けるために、児童クラブを市の、今までは京ヶ瀬こども園さんが運営されている京ヶ瀬児童クラブ・児童館であったのですが、なかなか入会希望があるので、オーバーフローしていると。その部分京ヶ瀬こども園さんもう少し増やしていただけますかということに対して、これが限界ですということで、ならば市で運営しましょう。京ヶ瀬の永寿園という介護ディサービスセンター介護保健施設があったのですが、これを市で転用して今年から平成30年度からやり始めたと。というところに来年度もうちょっと定員を増やしましょう、京ヶ瀬こども園でやっていた児童クラブを市が引き継いで永寿園でコスモス児童クラブということで移転をして移管をして行くことで、移転の跡地を保育室に転用し、これまでよりも多くの子どもさんを引き受けさせていただくことに繋がっております。このようなことで今分は対処が出来ていますが、先ほども申し上げましたとおり、まだ家が全部張り付いているわけではございませんので、今後家が建ち始めてご家族が引っ越してこられた中で、どういうことになるのかということは見通せない悩ましい状況でございます。現状では以上です。

委員：京ヶ瀬児童クラブはなくなって、コスモス児童クラブだけになるということなのでしょうか。

山崎課長：そうです。

委員：公立だけになり、現在の児童館があるところが保育園になり、新しいところにコスモス児童クラブ。現在でもコスモス児童クラブはやっていると思うのですが、そこを一括で京ヶ瀬のお子さんを預かるということですか。定員は合せて100名ですが、定員は増えてないのですか。

山崎課長：70名を想定しております。児童館は来たいときに来るということで、1人のときもあれば10人、20人のときもあるということでもありますので、70名を想定しております。児童館が10名程度、児童クラブが60名程度では。

五十嵐主任：今現在ということですか。

山崎課長：今後の想定。

五十嵐主任：児童館は定員というものはありません。面積の部分もあるので、新しく永寿園で運営するときは、20名ということで児童館の利用は見込んでおります。実際どのくらいの利用があるかということは、児童館は自由に来れるので、日によって違うことと、今京ヶ瀬の児童クラブを利用している通常入会のお子さんが40数名と、コスモス児童クラブの方は定員40名とありますが、実際通年利用の方は9名というところ、その合計を上回る70名の定員を設定させていただいて、来年度運営するこ

とにしております。今申込みが終わり今年度に関しては、申込数が59名の通常入会がありました。定員の中には収まっていて、一時利用も可能かと考えております。

委員：京ヶ瀬は新潟へ行くにもいいし、向うからも安く土地が買えて、幼稚園保育園もある、建てたら離れないかなと思います。

委員：私が知っているところでは全部がよそから来られた方というわけではなく、もともと京ヶ瀬に住んで同居していたのだけれど、ちょっと家を出られてという方もおられるので、子どもの的には変わらないのです。京ヶ瀬は京ヶ瀬のままでという子も結構いるので。

山崎課長：あそこに建った全部が他から来るということではないのです。市外から来るということではないようです。

委員：市外から入ってくることはいいなと思って聞いていたのです。

山崎課長：それでも半数近くは市外から、市にとっては建った半数でも来てくださるということは、市にとっては歓迎すべきことであると思っております。

委員：条件的には京ヶ瀬はいいのですよね。笹神とは違いますよね。

委員：中間地点という感じです。

委員長：今後バイパスの整備が進み、新潟市に近い起点となる地域になってくるかと思えます。全国、全県的に見ても人口流出、子どもの数が減る中で、人が来てくれるということは大変いいことです。阿賀野市の出生数というのは伸びてきましたか。伸びていないです。一時は全県下最低でした。そのような中で人が来ていることは大変ありがたい、逆に言えば出生数が伸びていないということは、子育て環境もどこか考えていかなければならない。それを考えていく上では、やはり住んでいる地域住民皆さんや施設運営者の意見であるとか、行政との対話の中で構築していくこと必要なことなのではないかと思っております。今回のこの京ヶ瀬の児童クラブの件は、説明等があったのでしょうか。単純な疑問なのですが、公の施設が民間に委託するときは非常に手続きを踏んでいくのですが、今回は逆なわけですけれども、私も寝耳に水だったので、これは行政と運営者が決めることで、委員も疑問に思われたのでしょうか。量の拡大も必要なのでしょうけれど、スムーズな移行だったのでしょうか。余計なことかもしれないのですが。

山崎課長：京ヶ瀬こども園さんからは、経営を分散させず、児童クラブとかは市で担わせていただいて、こども園に力を注いでくださいという意味もございまして、このような結果になったということもございまして。

委員長：この会議は、市で施策をやるためには都市計画があり、その中で子どもの育つ環境をどのように考えていかなければならないのかということで、この子ども・子育て会議というものがあって、この意見を尊重した上、市政に反映させることがこの会議の意味であるかと思えます。委員は地域の代表であり、いろいろな代表者が集まって子どものための会議を行うことが大事になってくるかと思えます。前回のこの計

画を策定するにあたっては、3カ月に1回位のペースで会議を開いていたようです。見直しはその都度必要なのではないかと思います。見直していくには、今までの実績の数値、今後の推計、それに応じての必要量がどれくらいの規模が必要なのかという議論すべきことだとは思いますが。実際に子育てに携わっているご家庭がどう感じてもらえるかということが出生数向上にも繋がっていく、子育てしやすいからもう一人作ってみようという気持ちにもなるのではないかと、逆にこんなのではとてもじゃないけれどももう一人もうけようは思えないと思うことも、地域にとっては不幸なことなのではないのかと思います。行政及び子ども・子育て会議ではこの視点を大事に考えていかなければなりません。それを考えていくにあたって、利用する方や地域住民の皆様方の声ベースになり、今後の計画を考えていく上でも必要な基礎ベースになっていくものと思います。これについての説明をいただいて、委員の皆様方から必要な観点、改善を要する点等ご意見をいただきたいと思っております。まずは説明をお願いします。

(3) 調査票の内容について

中澤係長：(資料2・3に基づき説明) (3) 調査票の内容について説明

調査票の設問については、前回平成26年度に実施した内容を踏襲し、修正点は2点となります。8ページの問い15-1の選択肢修正と、10ページの問い16-2の設問追加となります。

委員長：今ほどご説明がありましたとおり、ニーズ調査票はいつ頃調査をする予定ですか。

中澤係長：皆様から承諾をいただき、市長決裁をとった後に印刷をしたいと思っております。印刷の時間もありますので、こちらの要望としては、2月12日に各園、各小学校にお持ちして、園、小学校から子どもたちに配布をしてもらいたいと思っております。そして2月26日を提出締め切りとさせていただきたいと思っております。その後こちらからお邪魔してアンケート調査票を回収させていただきたいと思っております。

委員長：今年度中には冊子になりますか。

中澤係長：冊子まではいきませんがデータとして資料をまとめたいと思っております。

委員長：基礎調査になる大事な調査票になります。私も見ていて小学校別に分かっていることは非常に大事かと思っております。私ども阿賀野市保育会でも課長にもお願いしていたのですが、地域の出生数がどれくらいあり見込みがどれくらいあるのか、細かい数字は出せると思うのですけれども、実際保護者が利用して思うことを書く調査、市に対する要望とか、子育て環境に対する要望をいただく調査かと思っております。委員の皆様方、今調査内容を見ていただいて、この点はちょっと足りない、この辺を盛り込んでもらいたいとかあるかと思っております。就学前と就学児童ということで分かれていますので、それぞれ視点も違うところもあるのかと思うのですけれども、見ていただいて何かご意見等ありますでしょうか。

委員：休日について、皆さんはどうされているのか。みんな土日休み、祭日休みでは

ないですよ。

委員：私は休みなので。困ってないのですが。

委員：困っている人もいますよね。

委員：そうですかね。

委員：結果が楽しみです。

中澤係長：12ページに休日の希望について伺う設問もあります。こちらで調査することになります。

委員長：いろんな視点が必要だと思います。笹神、京ヶ瀬の状況がこの調査をすると反映されてくるのかと思うのですが、これは子育て全体のことですので、こども園や学童クラブのことだけではなく、全部の環境を考える必要があるのかと思います。そこでご意見、現状がどうなっているのかということをお伺いしたいのですが、どうでしょうか。このようなことが今問題になっている、このような議案を全体の中で考えてもらいたいなど、意見交換的なものなどありましたら、情報いただけたらありがたいと思います。

委員：特にはありません。うちの学校は統合して420名ちょっと。バス通学の子どもさんが240名おられます。これとは直接関係ないのですが、ある程度学校にいて帰るとそれなりの遅い時間帯になりますので、そういった部分であまり声は聞こえてきません。

委員長：バス通学で特段困っていることとかはありませんか。

委員：核家族ではなく、おじいちゃんおばあちゃんがいるところはそれでいいのですが、普段いなくてもそちらに帰るとか、そういう方が多いのでしょうか。

委員：今1年生も週3、4回6時間目まであります。2020年度からは1年生もほぼ毎日6時間になってくるようです。バス通の子どもさんたちは4時25分にバスが出ます。家に着くともう5時すぎ。それで自宅で過ごす。それが不可能ならば児童クラブでと。

委員長：授業時間数、教育指導要領が改定になりますので、小学校は3年生から英語が必修科目になります。今後授業日数の兼ね合いとか夏休み期間の日数とかで児童クラブに影響が出てくるかとは思いますが、その辺はどのようなことを話し合っているのでしょうか。

委員：子どもたちが学校にいる時間が非常に長くなる。関係のない話となりますが5、6年生は週2回英語が始まります。

委員長：3歳から学校の指導要領も変わりますが、この秋に幼児教育の無償化が確実に執行されますので、3、4、5歳児の子どもは無償化できるのでしょうか、満3歳児から無償化の対象になるということは、今の保育園で言えば2歳児クラスの子どもの1号認定も対象になってくると、保育園の方では2歳児が急激に増えてくるのかと、今はみんな満杯の状況なのですが、それで入園希望者が溢れてくるのかと思

います。全国的にみても待機児童が増えるのではないかと、無償化は保護者の方にとってはありがたい反面、いろいろな問題が出てくるのかというのがあるのですが、ニーズ調査の細かい部分が変わってくるのかと思います。無償化については質問には入っていないです。現在執行されていないものをどうこうというわけにはいきません。今後そういった事案も出てくるのかと思います。これは一年に一回とか半年に一回とそのようなペースでいくのでしょうか。制度も変わりニーズも変わってきていることもあるかと思います。その辺のニーズ調査を継続的に計画的に行う。保護者の方は負担かもしれませんが、よりよい子育て環境を作るには大事な基礎調査になってくるかと思っています。

最後に大きな視点をいただきたいのですが、新発田市と聖籠町は非常に出生数が伸びていて、子育て環境の改善に取り組んでいます。世帯数が増え、全県的なデータを見ると、この近くではその2市町村かと思っています。遠いところでは津南町の数字が変わってきています。やり方が変わってきているのかと。やり方しだいで数字は伸ばすことが出来るかと思っています。新発田地域振興局の方はこの地域の現状を把握していらっしゃるかと思いますので、この計画を作るにあたって、こんな視点があつたらいいのではないかというご意見がありましたら、いただけるとありがたいのですが。

委員：よその市町村の評価は持ち合せておりません。ひとつ気になるのは前回の調査の回収率はどのくらいですか。

中澤係長：回収率は63.8%でした。

委員：前回は何年でしたか。

中澤係長：平成25年でした。

委員：6年前です。最近統計問題で調査環境が非常に厳しくなっております。今回の回収率が半分を下回ることで、調査自体意味がないということになってしまいます。書いてくれる人の方が少ないと、書いてくれる人が特別だということになってしまいます。そんなデータを分析しても、いくら統計学を使ってもわからない。この調査票で前回と基本同じ方針でいくことは変わらないと思うのですが、配る時に余程丁寧にしておかないと書いてくれないと思います。先般別の市町村に私同じようなことを言っているのですが、お父さんお母さん方が疲れて帰ってきてこの調査票を見せられて、結構厚いのです。私たち行政関係者なら理解ができるのですが、普通の方は一体これ何ということになりますので、もしかしたら書いてくれないかもしれません。相当丁寧に配布しないと回収率が半分を割ってしまうのではないかと非常に疑問です。今一番心配しているのはそれです。おそらく前回はベースに作ったということは前回と比較したいということだと思のですが、出来ることならもっと簡単に出来ないのかなと思うのですが。ここは難しいところです。これはどうやって配布するのですか。幼稚園、保育園を通じて配布するのであれば相当丁寧に、これは大事な調査ですので、よろしく願いますということをやってほしいと思います。一番感じたところです。

もう一つは今日の会議というのは、計画がどれだけ進捗しているか諮るために我々の意見を求める会議なのでしょうか。とするとこの現状資料を見た時に、例えば今回の計画のこの部分はうまくいっている、この部分はうまくいっていないという部分がないものですから、皆様地域にお住まいなのでわかるかもしれませんが、私はその辺はわかりません。もし次回会議開催をするのであれば、計画の進捗状況がわかる資料をいただくと、それも事前にいただくとありがたいということが感じたところです。一番言いたいことは回収率を重視してください。よろしくお願ひしたいと思います。

委員長：確信をついた真摯な意見をいただきました。一番大事なところかと思ひます。こども園や小学校を通じて出すのであれば、保護者配布の時にメールの一斉配信網にするとか半ピラを付ける、メールで今日お渡しした調査は必ず阿賀野市の子育て施策に反映させるものですから必ず提出をお願いしますとか、園長名で添えるように配慮してもらえないか、学校長名で更にお願ひしてもらおうとか、そのような工夫も必要と思ひました。内容は細かい調査をすればこのような感じになってくるかと思ひます。

委員：内容は前回と比較を取りたいということかと思ひますので、仕方ないと思ひます。12日に配って26日締め切りということなのですが、早く進めたいということはわかるのですが、回収率のためには多少遅れてもいいから、一つでも二つでも回収する方を優先したほうがいいのではないのでしょうか。ちょっとタイトかなと感じました。保護者が疲れて帰ってきたところにこれを書けということになりますので、大変さを考えて、回収のための努力をしていただきたいと感じました。

委員長：工夫を社会福祉課で頭を捻っていただければと思ひます。二つ目の意見はそのとおりかと思ひます。冒頭申しあげましたとおりPDCAサイクルで評価改善の時期にきているかと思ひます。我々の任期は3月31日で終わりです。この評価を検討する機会はいいただけるのでしょうか。任期が終わって新メンバーでということになるのでしょうか。条例がしっかり策定されていて、子ども・子育て会議が位置付けられていますので、地域の実状をみれば変化が激しい、また国の制度もどんどん変わってきている。小学校、こども園、全体の環境も変わってきている中で、継続的に子ども・子育て会議の必要性というのは、私個人はあると思ひますが、委員の皆さんはどうでしょうか。自分が再任になるかどうかはまた別問題なのですが、こういう機会が必要ですよ。

委員：実際久しぶりに呼ばれて、そうだったんだなと思ひました。

委員長：この委員会としては今後継続的に、そして計画的にPDCAサイクルをきちんとまわるように、今後も子育て会議をしていくということをお望みさせていただくということで、よろしいでしょうか。現時点で次回があるかどうかはわかりませんね。

山崎課長：集計がでしだいとなります。ともすると皆様方からはこの調査内容を承認いただくことが、最後というお仕事になろうかと思ひます。また策定に向けてということは次年度に仕切り直しということが濃厚であります。

委員長：年度末ということもあります。この子ども・子育て会議は継続して行うことは、これは間違いありません。新委員になるか、現行委員になるかは別とし、それは要望するところでもありますので、計画的に子ども・子育て会議を推進して行って、市民の意見を反映した子育て施策を作っていくて頂きたいと思っております。

最後になりますが、委員の皆様方でこれだけは言っておきたいことがありますか。

委員：資料1の9ページの13児童家庭相談等母子・父子・寡婦等相談がございます。母子家庭父子家庭の方に対するサービスであります。それに類するものとして、母子家庭父子家庭の方の進学費用をお貸しする事業をやっています。勉強する気があるが、経済的な理由で進学出来ない方に対してお金を貸しています。東京の私大であれば数百万のお金も可能ですので、経済的に厳しい方でお子さんが勉強したい方に支給されますのでご相談ください。以上です。

委員長：ないようでしたら、全ての議題が終了いたします。進行を事務局にお渡しします。

中澤係長：委員長ありがとうございました。また、委員の皆様さま貴重なご意見大変ありがとうございました。それでは、本日の子ども・子育て会議は以上で終了とさせていただきます。本日は、どうもありがとうございました。

9 お問合せ先

民生部社会福祉課児童福祉係 TEL：0250-62-2510（内線 2150）

E-mail：shakaifukushi@city.agano.niigata.jp